

旧優生保護法による強制不妊、 手話が禁止された時代、障害者と女性への賠償金の減額... ろう者女性の生きづらさを繊細かつ強烈な描写で 描いた芸術的映画

女性であることと障害者であるという理由で裁判において賠償額が減少されたというニュースを知った時、今なお差別が残っていることに衝撃を受けました。幼い頃からろう者コミュニティで強制不妊についてよく聞いており、また養学校で手話が禁じられ、多くのろう者が苦しんでいたのも当たり前だと思っていました。しかし、大人になった今、当たり前ではない、女性として、母として、怒ってもいいと思いました。その怒りがきっかけで映画制作へと駆け出しました。この物語には、わたしたちろう者の女性の痛みや愛が詰まっています。3つの物語を通して過去、現在、未来を体感、共感していただけたら嬉しいです。
(横尾 友美 監督)

STORY

夫を亡くし、過去と現在を行き来する高齢女性、手話が禁じられ、日本語を身に付けることができなかった母を見つめる娘、子どもが欲しい女性...3人の女性の繰り返される痛みの先には何があるのか—

監督・脚本・出演・編集

横尾 友美

[LISTEN リッスン]映画出演



クラウドファンディング CAMPFIRE
「わたしたちに祝福を」映画制作、
上映会実施に向けてご支援お願い
いたします。



クラウドファンディング



映画公式サイト

最新情報は
公式 Instagram から
@tomomiphoto_10



Instagram